

在宅生活改善調査集計結果(概要)

1 調査の目的・概要

(1)目的

本調査は、現在自宅等で生活されている方で、「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている方」の人数や生活の改善のために必要なサービス等を把握することを目的とする。

(2)調査方法

市内の居宅介護支援事業所及び小規模多機能型居宅介護事業所に回答を依頼し、各事業所の介護支援専門員が担当する利用者の状況を調査した。

(3)調査基準日

令和5年3月31日

(4)調査期間

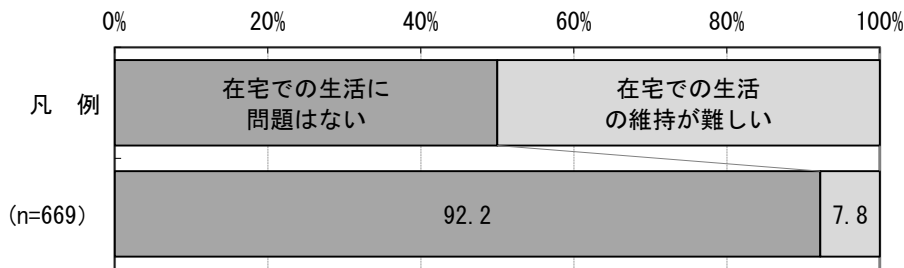
令和5年4月～5月

(5)回収状況

調査対象	調査票発送 事業所数	回収事業所数 (回収率%)
市内の居宅介護支援事業所及び小規模 多機能型居宅介護事業所	11	11 (100%)

2 調査結果

(1) 現在、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者



在宅での生活の維持が難しくなっている利用者数 → 52人(7.8%)

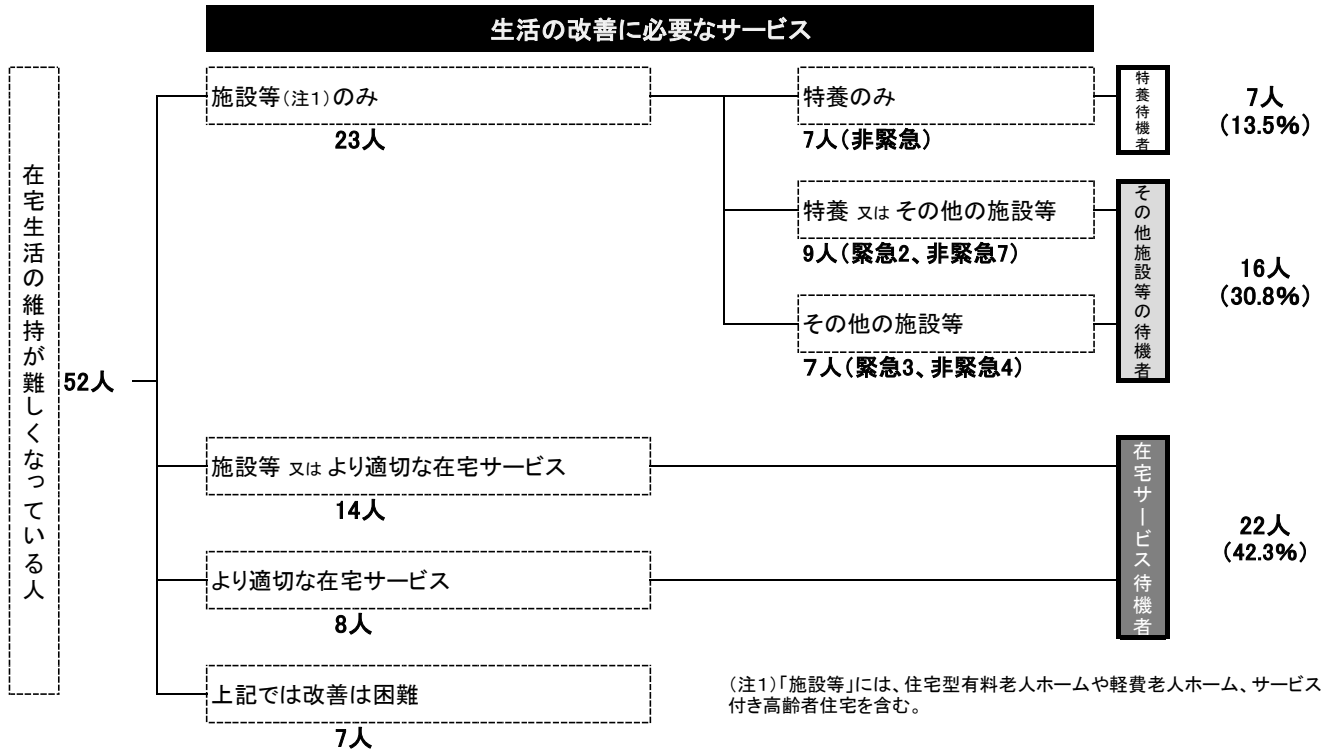
(2) 現在、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者の属性

順位	回答数	割合	世帯類型				要介護度	
			独居	夫婦のみ世帯	単身の子どもの同居	その他世帯	要介護2以下	要介護3以上
1	8	15.4%		●				●
1	8	15.4%	●				●	
3	7	13.5%				●	●	
4	5	9.6%			●			●
4	5	9.6%	●					●
6	4	7.7%			●		●	
6	4	7.7%		●			●	
6	4	7.7%	●					●
上記以外	7	13.5%						
合計	52	100.0%						

(注) 要介護度が「新規申請中」の方や属性が不明な方を「上記以外」として集計しています。

独居や夫婦のみ世帯の占める割合が大きい → 独居や夫婦のみ世帯は在宅限界が低い

(3)「現在のサービス利用では、在宅生活維持が難しくなっている人」の状況を改善するために必要なサービス



(4)「その他施設等の待機者」と「在宅サービス待機者」の生活の改善に必要なサービスの内訳(複数回答)

		その他施設等の待機者(16人)			在宅サービス待機者(22人)		
施設等	生活の改善に必要なサービス	特別養護老人ホーム	9人	56.3%	特別養護老人ホーム	10人	45.5%
		介護老人保健施設	1人	6.3%	介護老人保健施設	1人	4.5%
		療養型・介護医療院	2人	12.5%	療養型・介護医療院	2人	9.1%
		特定施設	0人	0.0%	特定施設	0人	0.0%
		グループホーム	8人	50.0%	グループホーム	1人	4.5%
		住宅型有料老人ホーム	1人	6.3%	住宅型有料老人ホーム	2人	9.1%
		サービス付き高齢者住宅	1人	6.3%	サービス付き高齢者住宅	2人	9.1%
		軽費老人ホーム	4人	25.0%	軽費老人ホーム	0人	0.0%
		在宅サービス	市内グループホームの定員:45人(9人×5施設) ↓ 本市の1月当たりの利用者数は43人(R5.3月サービス)で、稼働率はほぼ100% ↓ 現在の定員45人では、待機者8人の受入れは困難か。			ショートステイ	9人
				訪問介護、訪問入浴	5人	22.7%	
				夜間対応型訪問介護	3人	13.6%	
				訪問看護	3人	13.6%	
				訪問リハ	0人	0.0%	
				通所介護、通所リハ、認知症対応型通所介護	5人	22.7%	
				定期巡回サービス	8人	36.4%	
				小規模多機能	1人	4.5%	
				看護小規模多機能	3人	13.6%	

生活の改善に向けて、代替が可能

(5) 考察

本調査では、市内居宅介護事業所の利用者のうち、在宅での生活の維持が難しくなっている人は52人という結果になりました。この52人の世帯類型と要介護度を見ると、要介護2以下の軽度者でも、独居又は夫婦のみ世帯の場合は在宅での生活が困難になる傾向にあることが分かります。

また、生活の維持が難しくなっている理由としては、移乗、排泄等の必要な身体介護の増大、一人での外出や金銭管理が困難等の認知症症状の悪化が上位を占めました。

生活の改善に必要なサービスを尋ねたところ、特別養護老人ホーム、グループホームのほか、ショートステイ等の施設系・居住系サービスが上位を占める結果となりました。